

東京中野モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー研究所より設置を承認された組織であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー研究所は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正 15（1926）年に法学博士・廣池千九郎が創立して以来、一貫して人間性・道德性を育てる研究・教育・出版活動を展開し、生涯を通じて学びを深める「生涯教育」とともに、親から子へ、子から孫へと世代を重ねて道德性を育む「累代教育」を提唱しています。

モラロジー (moralogy) は、「道德」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

「いあいさつ」

東京中野モラロジ―事務所

代表世話人 田 中 秀 文

私達、東京中野モラロジ―事務所では「子どもたち」こそ「私たちの未来そのものである」という考えから、人間の徳性を育む紐帯である「家族の絆」について、子供たちを中心として共に考えていきたいという思いから、このエッセイ募集事業を企画いたしました。そして、この家族の絆エッセイ募集事業は第2回目となりました。今年度は中野区内小学校25校全校に応募原稿用紙と返信封筒を配布させていただきました。その結果、応募してくれた生徒さんが200名を超え、主催者である我々は大変嬉しい気持ちになりました。紙上を借り、参加された生徒さん、応援していただいた親御さんやご家庭の皆様には、御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、人間のこころを心理学的に観察すると、0歳から4歳くらいまで、記憶がほとんど残っていないその時代に経験したさまざまなできごとが、人間の「こころの個性」を作り出しているということはある本で読みました。当然、家族の影響、お父さんお母さん兄弟姉妹、お爺ちゃんお婆ちゃんとの触れ合いから、もともと持って生まれた遺伝的素質が反応して、その個性を作り上げることなんだろうと思います。

そこに「絆(きずな)」としての意味が隠されているのだなと思うのです。その人がその人として、この世にたった一人の人間として、そのアイデンティティーをつちかひ紡ぐ道程には、家族で織りなす様々な糸が、縦にも横にも織り込まれて、「その人」になっていくとき、「私」とは「家族の絆」で織り込まれた、布のようなものなのかなあと考える訳です。

そういう、それぞれとても素晴らしい「布」を垣間見させてくれるこのエッセイは、微笑ましかったり、力強かったり、ちょっとつらい部分もあったりして、本当にドラマを見せてくれるようです。参加してくれた小学生たちが、これからも家族と共にさらに人間として成長してくれることを、ここから願ってやみません。

なお、今年度は予算の都合で応募作品から40篇を選びこの小冊子にさせていただきました。来年度も引き続き「第3回家族の絆エッセイ募集事業」を継続して参ります。どうか引き続き皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年十二月

「いあこやい」

中野区教育長

田 辺 裕 子

第2回「家族のきずなエッセイ集」の発行おめでとうございます。昨年度は第1回目ということもあり作品募集に苦勞されたとお聞きしましたが、第2回目となる今回は多くの作品の応募があったとのこと、この事業の趣旨が多くの方々に理解されていることと心よりお喜び申し上げます。東京中野モラロジ―事務所様には、日ごろから中野区の子どもたちの「感謝の心」「思いやりの心」「自立の心」を育てるために様々なご協力をいただいております、この場をお借りして改めて、敬意と感謝を申し上げます。

さて、家族に期待される役割は社会環境の変化とともに変わってきていますが、私たちにとってその重要性に変わりはありません。近年、少子化、核家族化が進展し家族の単位が小さくなり、家族の形も多様になって、子どもが触れ合う大人の数や機会が少なくなり、家族のつながりが弱くなっているのではと懸念されています。しかし私たちは家族とのきずなを通して生きる力や喜びを感じることができず、家族とのきずなが深まればその関係を地域に、そして社会にと大きく広げることができます。家族や地域で大切に育てられれば、子どもたちはどのような苦境や困難にも立ち向かう勇氣と力を持つことができます。この家族の関係だけはどんなに世の中が変化しても大切に守らなければなりません。この事業を通じて、家族のきずなが一層深まり、子どもが幸せに成長できる社会の実現につながってほしいと願っています。

2016年度 家族の絆エッセイ抜粋集

「父との会話」	大和小学校	6年2組	横山 響	7
「あたたかい言葉」	白桜小学校	6年1組	鎌田かえら	8
「心の中のちよきんばこ」	新山小学校	6年1組	齊藤 彩華	9
「支えてくれてありがとう」	中野本郷小学校	6年1組	坂口このか	10
「花屋の父と母」	緑野小学校	6年1組	牛込まゆり	11
「ありがとう」	緑野小学校	6年1組	石井 愛理	12
「私の祖父」	大和小学校	6年2組	清水 理湖	13
「私のお姉ちゃん」	大和小学校	6年1組	石井 日向	14
「家族とは」	白桜小学校	6年1組	久保田菜々	15
「あたたかさ」	白桜小学校	6年1組	邸 勃 文	16

「人間の心の変化」	大和小学校	6年1組	土澤 黎	17
「今 ここにいる 私」	大和小学校	6年1組	高橋玖琉美	18
「家族がいるからできる」	白桜小学校	6年1組	野間 美帆	19
「絆」について	新井小学校	6年1組	篠田 朋子	20
「私の家族」	新井小学校	6年1組	辻 麻琴	21
「受けついでいく特ちょう」	緑野小学校	6年2組	和気はるか	22
「家族だから」	大和小学校	6年1組	神山寧依子	23
「離れていてもつながっている」	白桜小学校	6年2組	新田 悠月	24
「私のおばあちゃん」	桃園第二小学校	6年2組	八賀 詠美	25
「どんなことがあっても」	啓明小学校	6年2組	奥山ひなの	26

「強い家族のきずな」	新井小学校	6年1組	新妻 沙羅	27
「わたしのおばあちゃん」	緑野小学校	6年2組	大西 青衣	28
「家族が教えてくれた事」	緑野小学校	6年1組	杉本こゆき	29
「今の自分は家族のおかげ」	緑野小学校	6年1組	石橋ひなた	30
「ぼくの今」	大和小学校	6年2組	白井 倅太	31
「きずな」ってなに？	白桜小学校	6年1組	難波 大河	32
「ずっといつしよにいてくれた」	緑野小学校	6年2組	加賀田 優	33
「家族がいるありがたみ」	緑野小学校	6年2組	難波 和浩	34
「家族と友達」	大和小学校	6年2組	斉藤 大陸	35
「見えないきずな」	白桜小学校	6年2組	町田 駿	36

「曾祖父はかえる」	桃園第二小学校	6年2組	清水 大央	37
「たいせつな家ぞく」	桃園第二小学校	6年2組	森 昭喜	38
「キズナの意味」	啓明小学校	6年1組	平川 結麻	39
「おばあちゃんの心の中」	啓明小学校	6年1組	柴田 悠来	40
「家族の大切さを感じる」	新井小学校	6年1組	荒井 柊翔	41
「誕生日」	鷺宮小学校	6年2組	米屋すみれ	42
「大切に必要な家族」	緑野小学校	6年1組	横川 陽大	43
「大切な家族」	緑野小学校	6年1組	松本 奏	44
「二つのつながり」	緑野小学校	6年1組	小原なつ湖	45
	緑野小学校	6年1組	岡本 天	46

「父との会話」

大和小学校 6年2組

横山 響

「パンパン」と手を二回打つ。これは父がぼくたちを呼んでいる時の音。「パン」と手を一回打つ。これは、ただいま、おかえりなさい、了解、などの時に使う音です。

父は声を出すことができません。それは、ぼくがまだ小さかったころに手術をして、声帯を摘出してしまったからです。だから、ぼくや妹は、父の声を憶えています。父は、伝えにくいことだけは、人工喉頭を使って、相手に伝えていきます。

でも「パンパン」や「パン」などの合図は、家族で決めたわけではありません。いつの間にか合図になっていました。これはきっと家族がつながっているから、感じ合うんだと思います。なぜなら、話すことのできない父を理解しようという気持ちがあるからです。

人工喉頭をつかって会話するのは簡単ではありません。だから、人工喉頭を使わなくても会話できるように、これからも家族のきずなを大切にしたいです。

「あたたかい言葉」

白桜小学校 6年1組

鎌^{かま} 田^た かえら

私は、家族にいつも助けられています。私が学校で嫌がらせをされていた時期があり、毎日泣いていた時にお母さんとおばあちゃんに「泣いてないでもっと強くなりな！」と言われて、勇気がつき、このままじゃだめだなと思う事が出来たし、味方だからねと言われた時は、一人じゃないんだなと思いました。私の家はりこんしているのほとんど仕事でお母さんがいませんでした。そのいそがしい中でも私の事を気にかけてくれるお母さんの言葉はとてもあたたかかったです。おばあちゃんは家の手伝いで神奈川県から東京に来ているんですが、小さいころから友達たちとケンカしてしまったりした時に「早く仲直りできるといいね。」といったあたたかい言葉ももらっています。私にとっての家族はなくてはならない人、うらぎらない大切な人だと思います。私はこの二人に支えられているから今度は私がお父さんのいない分支えたいと思います。

「心の中のちよきんばこ」

新山小学校 6年1組

齊さい 藤とう 彩あや 華か

今までのわたしは、お母さんとなにげないことですぐけんかをしていて、暴力言葉をたくさん使ってしまった。お母さんによく、心の中にあるいいことをするとたまり、わるいことをするとへっていく「心の中のちよきんばこ」のいいことがどんどんへっていくよといわれます。おばあちゃんもときどきけんかをしてしまうときがあります。きをつけようと思ってもついい口から言葉がでてしまったり、そんなときにお母さんに「赤ちゃんができたよ」あやちゃん、もうお姉ちゃんになるんだねといわれました。その時から、（もう自分はお姉ちゃんなんだ、お母さんを手伝わないと！）思いました。妹が産まれた時におばあちゃんは亡くなってしまいました。

その時やっと自分の中でわかった気がしました。どうしてちよきんばこにいいことをためるのか、その日からいいことをためようと思いました。まだ少しはけんかをするけどこれからもいいことをたくさんためていくつもりです。

「支えてくれてありがとう」

中野本郷小学校 6年1組

坂 さか
口 ぐち
このか

私が「家族のきずな」を感じた時、それは私が、ぶたいでバレエをおどっている時です。

私は、発表会の当日に熱を出しました。その時は、とても大切な役をもらっていて、休むなんて、考えられませんでした。私は、一緒に習っている妹より、おかれて向いました。発表会当日に熱が出るなんて最悪。そう思っていました。楽屋に入っても気分が悪く、その時、お母さんは、妹の世話もあるのに、ずっとそばにいてくれて、心強かったです。

本番。おどっている時間は短く感じました。終わったら、みんなに、「よくがんばった。」とほめられました。

私は、家族の支えがあったから成功させることができたんだと思いました。おどっている時は一人だけけれども、うらで家族が見守ってくれているから、大好きなバレエが続けられているんだ。そして、バレエをやらせてくれた家族に、「ありがとう」の気持ちをもって、もっとバレエをがんばろうを思った。

「花屋の父と母」

緑野小学校 6年1組

牛^{うし}込^{ごめ} まゆり

私が毎日ご飯を食べたり、洋服を着たりできるのは、お父さんとお母さんのおかげです。私の父と母は、花屋を営業していて、母の日やおぼんなどは忙しくて、帰るのがおそくなります。

帰るのがおそくなる時には、友達の家で預かってもらったり、兄妹三人で、家で留守番したりします。家で留守番する時は、兄妹で協力して、洗たく物をたたんだり、食器を洗ったりと、自分たちで家事をしています。そして家事が終わると、母が作っておいた夜ご飯を食べたり、お風呂に入ったります。家事を自分たちでやると、父と母の大変さが分かってきます。そして、そんな大変な家事をしながら、もっと大変な花屋をやっていると思うと、自分の好きなことをする時間が全然ないことが分かりました。

家事も花屋も、私たち家族のためにやってくれているので、私も家族のためにやってくれているので、私も家族のために家事が花屋を手伝いたいと思います。

「ありがとう」

緑野小学校 6年1組

石井愛理

少し想像してみる。ずっと昔の私の祖先のこと。顔や名前はうかばないが狩りをして暮らしていた人、戦争の時代を生きぬいた人がいることにまちがえはない。そして今、そのような人が生きてきたからこそ私がいる。母も父も弟もいる。祖先の人に感謝しなくてはいけない。

五年生の時、私の祖母の兄が亡くなった。その時祖母は私に「家族に感謝するのは亡ってからではおそいのだよ。」と言った。

私は家族に何を感謝すべきかその時考えた。食べれること、学校へ行けること、それから私が今生きていられるのも家族のおかげだ。普段ずっと一緒にいるとあたりまえのように過ぎてく毎日で感謝することは少ない。でもよく考えると家族に感謝すべきことがとても多い。

感謝しておこう。はずかしがらずに声に出して。家族に、命をつないでくれた祖先の人々に。

「ありがとう。」

「私の祖父」

大和小学校 6年2組

清^し水^{みず}理^り湖^こ

これは私が今までをふり返って思った母方の祖父とのつながりです。

私は母方の祖父に会った事がありません。私と兄が生まれる前に若くして亡くなりました。私はいつも母から祖父の話を聞いたたび、「どんな人だったろう」と興味を持ちます。でも母が言うかぎり、心と体が強くて尊敬しきれない、ある意味の「宝物」だったそうです。

祖父は母に、人としての生き方、周りの人への感謝の気持ちを教えてくれたそうです。そしてどんな時も支えてくれる自満の父だったそうです。私は、もっと祖父に会ってみたいと思いました。そこで「祖父」を知りたくなりました。でも祖父の孫です。何かが伝わっているはずだと思いました。けれどそれは母が、これまで、これから伝えてくれるものだと思います。これまで、これから、人としての生き方、感謝の気持ちなどを教えてくれると思います。それを私はしっかりと心にとどめ、自満の母への尊敬、感謝を忘れずに、生きていきたいです。

「私のお姉ちゃん」

大和小学校 6年1組

石井日向

私には、二人のお姉ちゃんがいいます。

その二人のお姉ちゃんの中でも一番上のお姉ちゃんは一才の時にインフルエンザ脳しょうにかかりました。その時は左手が動かなくなっていました。そのため、なん度もなん度も病院でリハビリをしたそうです。リハビリをしていくにつれてじょじょに左手が動くようになっていったそうです。

だけでも高校生になった今でも左手の握力を測っても左手と右手の差があるそうです。私のお姉ちゃんは、ほかにもこういしうが残っていて、それは知てきしうがいとけいれいんが残っています。私のお姉ちゃんは知てきしうがいで小学四年生くらいの勉強があいまいになっています。私のお姉ちゃんは、なのでいま小学校でならう勉強をしています。私はそんなお姉ちゃんをそんけいしています。今はないけれどいろいろな所でお姉ちゃんの悪口やかげ口などをいう人などがいたら、私はお姉ちゃんの悪口などをやめさせると心の中できめました。

「家族とは」

白桜小学校 6年1組

久保田 菜々

私は、家族とは何があっても助け合える存在だと思っています。

以前、母が入院しました。普段、家事や仕事で家族を支えていた母が入院してしまい私や父は毎日学ぶことばかりでした。

私の両親は共働きなので母が入院しても父は仕事を続けました。そのため私は一人で家にいる時間と家庭の仕事をする時間が増えました。毎日洗たくや食事作り、部屋のそうじなどとても忙しい日々を送っていました。その中で気づいたことがあります。それは、母の存在が家族にとってもとても大きく大切なものだったということです。また、父が仕事の合間を縫って家事をこなしている姿を見て家族とは、誰に何があっても助け合い、支える存在だということを学びました。

この体験を通して家族とは何があっても助け合える固い絆で結ばれた存在だと気づきました。これからも家族を大切にしてみんなで支え合っていけるように頑張りたいです。

「あたたかさ」

白桜小学校 6年1組

邸てい 勃ぼつ 文もん

ぼくは、家族とは、あたたかい物だと思っています。ぼくが思うあたたかさは、大きく二つあります。一つ目は、互いに支え合うことだと思います。ここまでの家族の生活は、お父さんが、いろんな費用に使うお金を支えたり、お母さんが生活をするための用品の買い出しや洗濯などを支えたりしています。ぼくは、まだなにも支えていないので、これから何かを支えられるようにしたいです。二つ目は、はげまし合うことだと思います。家族は、だれかがくじけていたときに、その人を支えて、はげましてあげたり、何か、できないことがあったら、手伝いをしてあげたりすることだと思います。また、何か悩んでいるときに、話を聞いて、解決法を考えてあげたりすることだと思います。

家族にあたたかさがあるこそ、ここまで生きられたと思います。

「人間の心の変化」

大和小学校 6年1組

土^{つち} 澤^{ざわ} 黎^{れい}

ぼくは家族のきずなというものには、人の心が大きく関わっていると考えます。
なぜなら、ぼくが実体験したからです。

一 去年の冬にぼくのおじいちゃんは亡くなってしまいました。その亡くなってしまったときから約一年前、そのときからおじいちゃんは脳梗塞で入院していました。その頃から、一週間に一回、お見舞いをしにぼくとお母さんは行くことにしました。毎回、行くにつれて、おじいちゃんの顔色が悪くなってきました。その顔色をみて、ぼくは、毎回心が傷んでしまいました。どんどん体が重く感じるようになっていきました。そして亡くなった日、今までよりも、ずっと心が苦しく、体が重く感じました。

人間の心はきずなによって変わっていくと思います。良いことがあれば、心が楽しくなる。悪いことがあると、心が苦しくなる。おじいちゃんは、ぼくに人生はいいことばかりではないということを教えてくれました。

「今　ここに　いる　私」

大和小学校　6年1組

高^{たか}橋^{はし} 玖^く琉^る美^み

今、ここに、私がいる。私がいるためには父、母、祖父、祖母というつながりがある。

歴史も同じだと私は考える。徳川家康。この人がみなが知っているような人物になれたのも、武士や農民の人達。又、その武士や農民を産んだ、さらにその前の人へと続く、人達のおかげ。それは、徳川家康にかぎらず、全ての人が同じなのだ。その場に一緒にいた人を含め、数えきれない程の人が、その人に関わっている。縄文時代をはじめ、どこかで途切れればいなくなっている、その貴重な一人。

今の私には、私の身の回りの人だけでなく、祖先を含め、多くの人が関わっている。だがやはり、一番身近な人は、父や母だ。いつも私のことを思ってくれている。

私が今、父や母から感じている、この気持ち。私は大きくなった時、自分の子供にも、感じさせてあげたいと思う。そして、これから先も、ずっと、ずっと……

「家族がいるからできる」

白桜小学校 6年1組

野^の
間^ま
美^み
帆^ほ

私は、家族がいなかったらここまで成長し、生きて行くことができなかつたと思います。

私が小学一年生の時のことです。家族で、海外旅行に行ったときに私は旅行先で体調を崩してしまいました。それはちょうど外出していたときに、疲れきって弱っている私を兄が背おって目的地まで連れて行ってくれました。兄はまだ小学四・五年生だったのに、私のために力をつくしてくれました。

このようなことがあってから、私は家族にとっても感謝するようになりました。ふだんの日常の中でちょっとした小さなことでも、相手が私を気づかせてくれたりしていると思つたから、どんなに小さなことでも感謝するようになりました。時には家族とけんかをしますが、このような経験をすることで私は、強く生きていけるように育まれていくのだと思います。

「絆」について

新井小学校 6年1組

篠^{しの}田^だ朋^{とも}子^こ

「絆」という言葉がとても注目されたのは東日本大震災だったと思う。その頃新聞等では盛んに「絆」という言葉が使われていた。「家族の絆」「助け合い、支え合い」。その頃、五歳の私は「絆」を強く意識出来る年齢では無かったけれど、六年たった今でも「絆」という言葉が大事にされているのは改めて言葉の持つ意味や行動が見直されているのだと思う。

改めて私達家族の「絆」を考えてみる。正直、本やテレビで表現されているように感じたことは無い。本当に感謝しなければならぬ。でも、空気のようにそこに存在していることは感じる。家族である、家族がいる、困っていれば私が何もできなくても少し心配になる、妹がお腹を痛がっていたら、私もほんの少し痛くなる……。とってもいっぱい困っていたら、痛がっていたら、離れ離れになったら……。考えたくなくでもどうにかしなきゃ……。何ができるかどうか分からないけど、でも自信はある。

「私の家族」

新井小学校 6年1組

辻 つじ
麻 ま
琴 こと

わたしは、八人家族です。いつも会社のしゃちょうとしてがんばってくれているおじいちゃん。いつも学校へ行くときに「わすれものはない？」と聞いてくれるやさしいおばあちゃん。そして休みの日などにいろいろなことをおしえてくれるお父さん。いつも家の家事をがんばってくれていてお母さん。長い休みにしか帰ってこないけど私にいろいろなお話をしてくれるお姉ちゃん。そして私。最後に一緒に遊んでくれる妹です。私はそんな家族が大好きです。一人一人毎日がいそがしくて一緒にいることは少ないけれど、心は必ずそばにいます。

四月に、ひいおばあちゃんが亡くなってしまったのは残念だったけれど、ひいおばあちゃんがあったので今この私のいのちを大切にしたいです。私はこのお母さんを選んで生まれてきてよかったです。なので、私はいつでも、どこでも、神様に感謝します。

「受けついでいく特ちょう」

緑野小学校 6年2組

和わ気きはるか

私はたまに、祖先の特ちょうが受けつがれているな、と強く感じる場合があります。例えば、本をたくさん読んだときや、ピアノがうまくひけたときです。しかし、体育の授業で失敗したときにも感じる場合があります。受けつがれてきたものには、良いものも、悪いものもあります。良いものだと、父や母、祖先たちのすごさを感じます。しかし、悪いものだとなんで受けつがれてきたのだろう、と思ってしまいます。でも、やっぱり、祖先たちのすごさの方が強いです。

私は、良いことも、悪いこともあって、「受けつぐ」という意味なのかな、と思いました。祖先から受けつがれた特ちょうを、今まで以上に大切にしていって、自分の特ちょうを、家族の特ちょうと感じて、大切にしていきたいです。今まで受けつがれてきた特ちょうを、私の子孫に伝えていき、家族の特ちょうを、受けついでいってほしいです。

「家族だから」

大和小学校 6年1組

神 かみ 山 やま 寧依子 ねいこ

私は、家族はいつも私のことを考えてくれて相談にもものってくれる人達だと考えています。

以前、学校の友達とケンカをしてしまったことがありました。ケンカをしてからはずっと、相手が悪い、何を考えているんだと思っていました。しかし、次の日学校へ行くと、とても気まずいふんいきで、どちらか一言も言葉を交わしませんでした。そして、謝まらなくてはいけないと思いますながらも謝りませんでした。そのような時にたよれるのが家族です。母に相談してみると、きつと相手も同じように思っているから早く謝った方がいいとアドバイスをもらいました。

このことから、家族は、困っていたらアドバイスをくれて気安めにもなるのでいい人達だと思いました。これからは、家族を大事にして、将来はきちんと親孝行をしたいと思いました。

「離れていてもつながっている」

白桜小学校 6年2組

新^{にっ}田^た悠^ゆ月^{つき}

私の祖父母は、石川県と広島県に住んでいます。だから、なかなか会うことができせん。

広島県に住んでいる祖父母が仕事が大変なものにも関わらず、仕事を休んでまで私達に会いに来てくれました。幼い時の私は何故そこまでして私達に会いに来てくれるのかを不思議に思い、聞いてみました。すると祖父が、「住んでいる所は離れていてもつながっているからかな。」と答えにっこりと笑みをこぼしました。私は今ではその意味がよく分かります。

私は、きずなどは住んでいる所や生活の仕方が違って心の中で見えない糸でつながっていることだと考えます。また、私は家族の間はきずなどで結ばれていると思います。だからこそ家族を大切にし時に助け合い時に笑い合いながらきずなの輪を広げていきたいと思いました。

「私のおばあちゃん」

桃園第二小学校 6年2組

八^{はち}賀^が詠^え美^み

私のおばあちゃんはボケています。なにかしてあげてもすぐわすれてしまって、最初からもって来ないのに「黒いバッグがない。」といつまでも言っています。ごはんを食べても「食べてない。」と言います。

昔は、いっしょに買い物にいたりおばあちゃん一人で私の家にこれたのに今はもう、だれかいないと出来ません。最初はすごくいやで、クラスの男子にバレたらからかわれると思っていました。

でも今は、じしんをもってしょうかいです。私のおばあちゃんは、世界一優しくて、おもしろいです。ふつうのおばあちゃんと少しちがうけどとてもじまんのおばあちゃんです。もし私みたいに、おばあちゃんがいやだと思っていたらおばあちゃんのいい所をみつけるといいと思います。

「どんなことがあっても」

啓明小学校 6年2組

奥おく山やま ひなの

「がんばったから大丈夫。」

今年の運動会は私の白組が負けてしまった。と中で同点まで追い込んでみても敗北してしまった。ずっと応援してくれていた両親には申し分けなかった。それでも、家に帰ってドアを開けると笑顔で待っていてくれた。そして、「負けたけどがんばったね。しょんぼりしなくても、がんばったから大丈夫。」と私をほめてくれた。

家族とは、どんなことがあってもはげましてくれたり、相談に乗ってくれたりするかけがえのない存在だと私は思う。また、どんなことがあっても切っても切ることのできない糸で結ばれていると思う。だからこそ、これからの未来のために、今からでもできる家族のことや将来の家族のことについて考えていきたい。そして、苦しくても大変でも、大切な宝物の家族を守って、次世代につないでいきたい。

「強い家族のきずな」

新井小学校 6年1組

新^{にい}妻^{つま}沙^さ羅^ら

みなさん、家族のきずなとはどんなものだと思いますか。私が思う家族のきずなとは、とてもつながりが強くどんなことがあっても絶対に切れないものがきずなだと思います。そんな、家族のきずなを感じた時があります。

それは私が4年生の時です。すごく高い熱を出してしまいました。でも、私の両親は共働きのので休みをとることがあまりできません。私は、「休まなくてもいいよ。」と言ったのですが、心配して仕事ができないと言い、何とかたのんで3日間も休んでくれたのです。私はこの時、こんなに心配してもらえることがどんなにありがたいことかを知りました。家族が助け合えばどんなことでもできる気がします。

これからは、お母さんが熱を出した時も、お父さんが熱を出した時も、私を気づかせてくれた時のように家族を気づかいながら生活していきます。

「わたしのおばあちゃん」

緑野小学校 6年2組

大西青衣
おおにしせい

私が家族のきずなをかんじたのは小学校三年のときだ。

三年生のとき、おばあちゃんが倒れて頭をうって入院した。私がお見まいにいったときおばあちゃんは、私を見ても誰なのか分かっていなかった。すごく悲しかったし、もう前の優しいおばあちゃんではないということを知った。今は、おばあちゃんは元気になったが、ときどき、不思議なことをいう。だからおばあちゃんの介護がはじまって、三年くらいになる。いやなときがあったって、おばあちゃんは、私の大切な人だ。

祖先の人に、会ったことはないけれど、祖先の人とは、血がつながっているのだから、大切なんだといえると思う。私のおばあちゃんだって、血がつながってる。これからは祖先に、感謝しながら、家族や、ちのつながった人というものの意味を深く、考えてみたい。

「家族が教えてくれた事」

緑野小学校 6年1組

杉^{すぎ}本^{もと}こゆき

私の家族は、6人います。ペットの猫もいます。私の母と父は私の赤ちゃんの時の話しをしてくれました。私が小さかった時、とてもつらい思いをしながら母が生んでくれた時の話しをしてもらいました。病院では、ベッドの周りには、たくさん医者がいちそうです。その中には、私の父がいたそうです。とつぜんとおなか痛くなりました。へんな思いをして私をがんばって生んでくれたそうです。その話しを聞いてこわくなりました。父が話してくれた時は、私が、一才ぐらいの時の事です。一才の私のめんどうを見てくれた父。歩く練習を教えてくださいましたそうです。やさしくしてくれた父とても笑顔でした。

一番心に残っている事は、私が始めて自転車に乗った時の事です。自転車に乗れなかった私は、とてもイライラしていたそうです。その話を聞き、あの時は「ごめんなさい」と思った。2人の話しが終わると私は、「これからよろしく」と言うと「こちらこそ」と言ってくれたのです。

「今の自分は家族のおかげ」

緑野小学校 6年1組

石^{いし}橋^{ばし} ひなた

私は、幸せだと思う。なぜなら普通にご飯をたべて、服を着て、それに学校にいつて、勉強している。これはだれのおかげなのかを考えると、家族のおかげだ。私の家は3人家族、母、父、そして私だ。

母は一生懸命私のめんどうをみてくれて家で仕事をしてくれている。父は朝、会社にいき夜まで仕事をして家庭を支えてくれている。父と母は会社からお給料をもらって私を学校にいかしてくれて服を買ってくれて、食料もかってくれる。そんなことを思うと私は感謝しきれない。

私もきつと大人になって家族をつくって子供ができて、その子を、学校に行かせて働いてお金をもらって食べ物を食べるんだなあと思うと、私にできるかなあと思うんです。今の自分は家族のおかげでいる。家族がいなかったら私はどうなのかなあと思います。私は大人になったらぜったい家族に恩返しのかわりに支えていきたいなと決めました。

「ぼくの今」

大和小学校 6年2組

白^{うす}井^い倅^こ太^た

ぼくがいま生きていられて大好きな恐竜のことをたくさん知れて大好きな野球ができています。はすべて家族のおかげです。

そう思っている理由はたくさんあります。ぼくは生まれつきアトピー性皮膚炎というはだや内臓が弱くなってしまいうアレルギーを持っています。ですが母がそこに気をつかって食べ物を少しずつ食べさせてくれるなどして管理をしてくれました。なので今はたくさん食べられるようになります。元気に生活することができています。

もう一つは父についてです。母がいない時は弟やぼくのめんどうを見てくれます。そして好きなものに打ちこませてくれる所にも感謝しています。恐竜の博物館に行かせてくれたり、朝野球の練習につき合ってくれたりしています。

最後に家族の人たちに心から感謝しています。今までできてもらったことは数えきれませんがこれからもよろしくお願ひします。

「きずな」 つてなに？

白桜小学校 6年1組

難^{なん}波^ば大^{たい}河^が

ぼくは、兄が一人いて両親がいます。一人でも欠けると家族ではなくなると思います。野球をやっているのですが、コーチも家族だと思っています。

一人でくらしについても必ず支えてくれる人がいる。それが兄や弟、両親だけでなくも近所の人
が支えてくれていけば家族だと思います。家族は、一つのきずなで結ばれていてどこかで結の系
が切れると自分のコントロールが難しくない家族に暴力をしてしまうことがあると思います。し
かし、きずなの系が切れずに保たれていけばみんな協力できます。だからきずなは大切だと思
います。もし、ペットを飼っていけば、ペットも家族、みんな人間だけでなく動物にもきずながあ
ると思います。

今回、この作文を書いて改めてきずなの大切さを感じることができました。きずなは、一人ひ
とりの心にあるけい帯電話だの思います。

「ずっといっしょにいてくれた」

緑野小学校 6年2組

加賀田

優

私は一才から四才の間、月に二、三回ぐらい入院をしていました。それは、毎回四十二度のねっが出ていました。そのたびに母は、病院につれていってくれました。

いつも、私が入院しているから、退院した時はゆうえん地や動物園につれていって来て、でも、次の日には、入院したりしていました。母は、「昨日、むりして遊園地につれていったからだ。しなきやよかった。」と、私とずっといっしょにいてくれました。

ときには、父も来てくれて「大丈夫、がんばれ」とはげましてくれました。

今、そんな話を母と父に聞くと、「自分の体がよわくて、入院してみんなにめいわくをかけていたのに、家から服をとってきてくれたり、母は自分のせいにしてくれたり、一番は、仕事もしていて妹もうまれたのに、ずっとずっといっしょにいつもいっしょにいてくれたんだな」と思いました。母も父も私の事を、一番に考えてくれました。

「家族がいるありがたみ」

緑野小学校 6年2組

難 なん
波 ば
和 かず
浩 ひろ

ぼくは、今、とっても大切に行っているものがあります。それは家族です。ぼくたちは家族がいるからここまで成長できています。だから家族が大切です。

ぼくが誕生日のときに母は最初に「誕生日おめでとう」と言ってくれます。それに、プレゼントは、ぼくのほしいものを何でも買ってくれます。父はぼくの誕生日ケーキをみんなで食べるときに、ケーキの上ののっているいちごとか、ぼくがほしいなあと思ったものを分けてくれます。兄は、おかしとか、ちよつとした物を何個か買ってくれます。

家族は、このように家族同士で支え合いながら生活しています。家族はかけがえのないものでぼくのためにも大切な家族です。これからも、もっと家族を大切にし、いつまでもかけがえのない存在でありたいです。

「家族と友達」

大和小学校 6年2組

齊さい 藤とう 大り 陸く

みなさんは家族と友達は全然ちがうと思っていませんか。ぼくは似ていると思います。理由は友達に時にケンカして時に一緒に笑ったりするものです。家族もそうです。時にケンカして時に笑ったりするものだからぼくは似ているなと思います。ぼくはいつも母とケンカばかりしているけど必ずどちらでもケンカの後には「ごめんね。」とあやまります。だから母もおこりすぎたな思っています。でもあやまるのはとても時間がかかります。友達もそうです。どちらも自分には悪いと思っているのにあやまれないから時間がかかってしまいます。

そしてもう一つ友達と家族は似ているところがあります。それはどちらも大切な存在ということです。ぼくは家族と友達がいなければ今の自分はいません。

ぼくは家族と友達に感しやしたいです。

「本当にありがとう」

「見えないきずな」

白桜小学校 6年2組

町^{まち} 田^だ 駿^{はやと}

僕は、家族とのきずながつながないと思つたことがありました。なぜなら、ほとんど毎日僕のことを怒っていたからです。しかし、家族ときずなが結ばれていると分かつた出来事がありました。

三年生のときに家に帰るのがいやなときがありました。だから、早く帰るはずだったのにわざと遅く帰ろうと思つていました。そのときに僕は母はいつも怒っていたから、心配してないと思つていました。そして、帰り道を遅く歩いていると、母の方から見つけに来てくれました。家の中に入ると、家族全員が心配していたけれど、その中でもいつも怒っている母が心配してくれました。僕は、母が怒つてるときもきずながつながないことが分かりました。

このことから、自分が怒られていても、見えないきずながつながないことが分かりました。これからも、きずながつながない家族を大切にしていきたいです。

「曾祖父はかえる」

桃園第二小学校 6年2組

清^{しみず}水^{みず}大^ま央^お

二〇十一年一月。曾祖父が亡くなった。九十三歳だった。その時はちょうど夜中の十二時をまわるころだった。ぼくも大泣きした。けれども、病院まで行って最期を見届けることができなかつたのが今でも心残りで悔しい。

しかし、ぼくは最近も曾祖父を見かけていると思う。いや、きっと見かけているのだ。曾祖父のそう式の日、家を出るためにドアをあけると、茶色いカエルが一匹いた。小学校に入学してからも、雨の日の帰り道にときどき見かけた。別の家に引っこした後も、雨の日、ときどき見かける。そう、ぼくの思うには曾祖父は「カエル」になって「帰って」きたのだ。母から聞いたが、曾祖父はぼくをとても可愛がっていたのだという。だから、今日になってもぼくを見守ってくれているのだな…と思う。

「たいせつな家ぞく」

桃園第二小学校 6年2組

森^{もり} 昭^そ 喜^ひ

私の家ぞくはぜんぶで五人です。いつもやさしいお母さん、びょうきだけど私のためにはなんでも買ってくれるおもしろいじいちゃん、私をきがらってるふりをしても体をしんぱいしれくれるばあちゃん。そしてしょうがいしゃだけど私のことをかわいく見てくれるおばちゃん、こんな人が私の家ぞくです。

私はいまお父さんとはすんでいません。韓国にいます。韓国でうまれた私は学校でも韓国人と言われています。「そういうことがあってもお母さんは日本人だからそひも日本人だよ」とおかあさんが言ってくれてとってもあんしんです。私のおばちゃんはしょうがいしゃで家であばれたり一りでびょういんへ行けなかつたりすると、とってもしんぱいです。学校へ行ってるあいだはおばあちゃんがおばちゃんめんどを見たりするのでおばあちゃんがつかれてるかおを見たら私もかなしくなります。じいちゃんはいまびょういんにいます。とうにょうびょうなので家ぞくぜんいんがとってもしんぱいです。とってもたいせつな家ぞく、びょうきがなあってみんなでありょうにいったらいいなとおもいます。

「キズナの意味」

啓明小学校 6年1組

平^{ひら}
川^{かわ}
結^ゆ
麻^ま

私には弟・母・父がいます。弟とは、としがあまりはなれていないから、すぐにケンカをします。ひどい時は、なぐったり、けったりのくり返しです。そんな時は母がケンカをとめます。そして母は、「なぐったりしない。」と怒ります。私はそれが気に入らなかつた。だって、私からやったわけは無く弟からやってきたのに、どうしてやり返しはしちやダメなのか。なっとくいかないので母に聞きました。すると、「人間なんて、ちよっとした事で死んじゃうんだよ。角に頭ぶついたりしただけで。あんたは、弟を殺した殺人犯になってもいいの？いやでしょ！だから心配して言うてるんでしょ」と少し、泣きそうな声で言いました。その時、私は「あ、こんなに心配してくれてたんだ。もうしわけないな」と思い、この時、きずなの意味が少しわかった気がします。

ありがとう、ママ。ママの子供で良かった。

「おばあちゃんの心の中」

啓明小学校 6年1組

柴^{しば} 田^た 悠^ゆ 来^ら

私は、おばあちゃん、おじいちゃん、お父さん、お母さん、弟と住んでいます。私はピアノをやっていて、四年生のときから毎年コンクールに出場しています。予選を合格すると本選に行くので練習量も多くなります。そのため夜にひいたりすることもあります。四年生のとき本選へ行くことになり、お母さんに注意されることが多くなって、おばあちゃんたちにめいわくをかけてしまいました。次の年にはおばあちゃんたちにコンクールに出ることを反対されました。今年も。でも今年で最後と約束して、今年もコンクールに出ました。

この間予選がありました。家を出るときに、おばあちゃんに「がんばって。」と言われたのでびっくりしました。おばあちゃんは、おうえんしてくれていたことがわかりました。

みんなにすごいといわれるようなえんそうができるよう、がんばっていききたいと思います。

「家族の大切さを感じる」

新井小学校 6年1組

荒^{あら}井^い柁^{しゅう}翔^と

ぼくは、家族や祖先が大切だと思っています。家事、洗たく、買い物、仕事などをしてくれたり、みえないところで移動教室の準備や習い事などささえてくれています。祖先の方もぼくたちを見守ってくれたりしていると思っていますとても感謝しています。

また、前に空手の習い事の試合でお父さんやお母さんは

「けり(キック)がひくい」

などといってくれました。そのおかげで1位にはなれなかったけど3位になりました。

また、おじいちゃん、おばあちゃんもおうえんにかけてくれてきてくれます。このように、家族や祖先は見えないところでささえてくれたり、ぼくのためにいろいろなことをしてくれます。

なので家族とはキズナでむすばれているのだと思います。

「誕生日」

鷺宮小学校 6年2組

米^{よね}屋^や すみれ

私は、父、母、弟の四人家族で住んでいる。すぐ目の前には、祖父や叔母が住んでいる。家族のきずなが感じられるのは、誕生日の日だ。

なぜなら、みんなが集まって一人のためにお祝いする日だからだ。我家では誕生会を三回やる。四人家族なのにどうしてと思うだろう。それは、父と私の誕生日が同じ日であるからだ。私は父と同じ誕生日で良かったと、思う。なぜなら、仕事でいそがしい父でも私の誕生日だったらいつも早く帰って来てくれる。そのおかげで盛大なパーティーができる。そして父もお祝いしてもらえ。みんなが心から祝ってくれると私は思う。

家族のきずなは心から何かをしてくれるということだと私は思う。なので誕生日を祝う人も祝ってもらう人も心からお祝いし、お祝いされよう。こんなときこそが家族のきずなと言えるだろう。父がいなければ私はいない祖父がいなければ私はいないと誕生日に想う。

緑野小学校 6年2組

横^{よこ}川^{かわ}陽^{はる}大^と

ぼくは、家族といるといつもすごくしあわせです。なぜかというと、お父さんは仕事でぼくのためにがんばってくれたり、お母さんはいつもごはんを作ってくれたり勉強でわからないことを教えてたりしてくれていたからです。

もう一つの理由はこんなエピソードがあつたからです。ぼくが交通事故の時救急車に運ばれる時、お母さんがそばにいてくれて、お母さんはぼくのことをすごく心配してくれているんだなあと思えました。そして家に帰ってお父さんがソファーにねかしてくれて、お父さんもぼくのことを心配してくれているんだなあと思えました。

そしてぼくは、お父さんやお母さんは、ぼくのことを心配してくれたり、ぼくのためにすごくがんばってくれたんだなあと思えました。ぼくはそんなお父さんやお母さんに感しやしています。ぼくはいつかその感しやの気持ちを伝えたいと思います。

「大切にが必要な家族」

緑野小学校 6年1組

松^{まつ}本^{もと} 奏^{かなで}

私の親は、よく私のことを注意する。そのとき私は必ずうるさいな、分かっているのと思う。でも後から考えると、大人になってからこまらないようにするために言ってくれるんだ。そう思うとやっぱり自分が悪かったなと感じます。ときどき、反論してきついことを言ってしまう。そうなると思ったら、後になってからこうかいしてしまいます。

私はやろうと思っただけで行動しているときに、「やりなさい。」といわれるといらいらしてやりたくなくなります。それでもやらないと反省しなさいと親はどなりまします。私はこんな自分をしっかり育ててくれて、しかってくれて、やっぱり大事な、大切な親で、自分にとってもみんなにとっても一番必要な人なんだなと思いました。

親にはとても感謝しているたくさんめいわくかけていて悪かったなと感じまします。私にとって家族は大切な、大切な存在です。

「大切な家族」

緑野小学校 6年1組

小原 なつ湖

私は、バスケットボールが好きで、バスケットボールクラブに入っている。私は、チームのキャプテンなので、私たちのチームが試合などのとき、お世話係として、母と父が、スケジュールなどをみんなに教えてくれたり、にもつはこびなどと、いつもてつだってくれます。

そして、九月にある合宿などの、費用、人数をまとめる仕事などもあります。そのうえ母と父は、平日は、仕事、休日は、てつだいとやすむひまがありません。それなのに「つかれた」「つらい」などはいけません。私はそんなにがんばってやっている理由を聞きました。すると、「あなたが、がんばってくれているからお母さんもがんばる」といいました。そんな私のためにがんばる母に、かんしゃします。

これからもがんばるのでよろしくお願いします。がんばってほしいです。

「二つのつながり」

緑野小学校 6年1組

岡 おか
本 もと

天 そら

僕は学校に通っている

育ちざかりで生活も苦しいはずだ

でも僕のためにお金をかせいでくれる

父と母の努力が僕を支えてくれていて

父と母の愛情が僕を成長させてくれる

僕は塾に通っている

塾の月謝は高くともたいへんそうだが

でも、僕の将来を思っただんばってくれる

父と母の思いで僕ははげまされ

父と母からの信頼で僕はよりがんばるのだ

僕は父と母からの愛情や信頼によって

より学びや成長を深めるのだ

父と母は僕の成長によって

よりがんばろうと思ってくれるのだ

この二つのつながりによって

僕の家はなりましたっているのだ